

最大の圧砕力と自慢の開口幅

# 圧砕機 SVシリーズ BOOSTER ブースタ

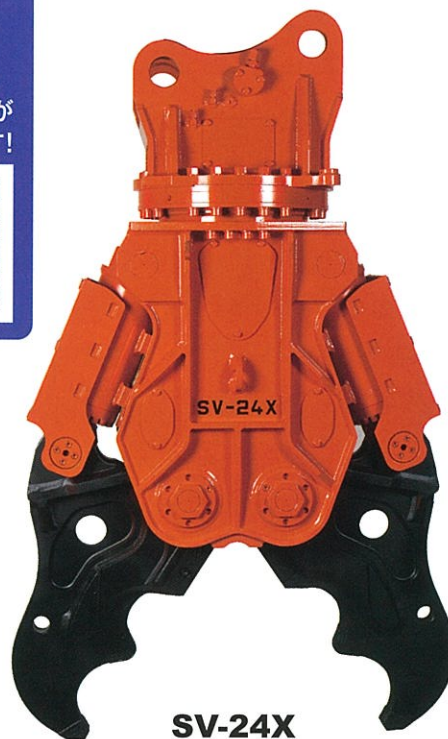
## シリーズ特長

ブースタ内蔵、最高の出力 & ハイスピード!



### Point

- 油圧シリンダに増圧機構内蔵。最高の出力でなおかつハイスピード解体。
- 2シリンダ採用により、アームの閉じ始めから終わりまで最高の破碎出力を維持!
- 優れた左右バランスで一段と向上した機動性!
- アームの開閉によるシリンダの張り出しが少ない
- センターカッタ標準装備。



SV-24X

[仕様] ※ (R)は油圧旋回タイプ、SV-65XR、SV-100XR、SV-110XRは油圧旋回タイプのみ

	先端 破碎力	最大/最小 開口幅	本体内蔵 リリーフ弁 設定圧力	ATT油圧 配管設定 圧力	油量	質量	【参考】 取付 ショベル
	kN	mm	MPa	MPa	L/min	kg	tonクラス
SV-15X	700	950/0	28	30	80~150	1620	10~16
SV-18X	700	950/0	28	30	80~150	1785	19~21
SV-24X (R)	1100	1100/0	28	30	100~200	2510 (2565)	19~28
SV-36X (R)	1260	1350/0	25	28	150~250	3870 (3920)	29~38
SV-47X (R)	1600	1600/0	26	28	175~275	4905 (4890)	39~48
SV-65XR	2140	2000/0	26	28	200~300	特注問合せ	60~70
SV-100XR	2660	2200/0	28	30	200~300	特注問合せ	80~100
SV-110XR	2600	2200/0	28	30	300~500	特注問合せ	180~220

\*各製品の仕様は、改良のため予告なく変更することがありますので、ご了承下さい。

\*取付の際には当該ショベルのアタッチメント装着可能質量をご確認ください。

\*ATT油圧配管の圧力は指定の圧力に設定して下さい。圧力が高すぎると故障や破損の原因になります。

## SV-7X

### 特長

- 同クラスモデルでトップクラスの大開口幅 & ハイスピード・ハイパワー!

[仕様]

	先端 破碎力	最大/最小 開口幅	本体内蔵 リリーフ弁 設定圧力	ATT油圧配管 最大設定圧力 (最大使用圧力)	油量	質量	【参考】 取付 ショベル
	kN	mm	MPa	MPa	L/min	kg	tonクラス
SV-7X	450	700/0	—	28	50~80	745	6~9

\*各製品の仕様は、改良のため予告なく変更することがありますので、ご了承下さい。

\*取付の際には、当該ショベルのアタッチメント装着可能質量をご確認ください。

\*ATT油圧配管の最大設定圧力を指定の圧力に設定して下さい。圧力が高すぎると故障や破損の原因になります。

NEW

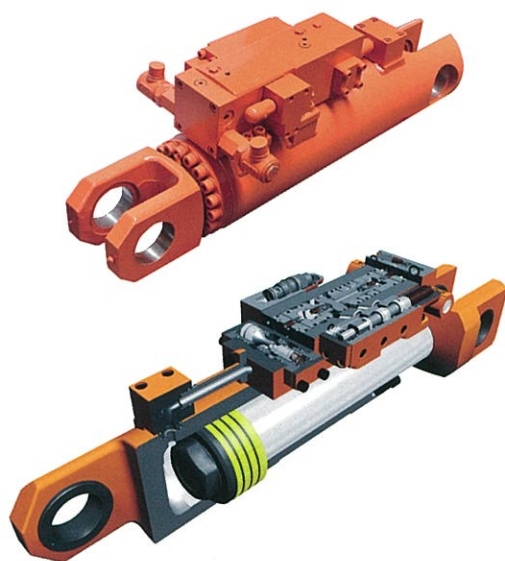


SV-7X

# NPKの独自技術 ブースタ機構

搭載機種 **圧砕機S、SV、Xシリーズ** **小割圧砕機 Gシリーズ** **鉄鋼切断機 K、Mシリーズ**

## ハイパワー・ハイスピードそして低燃費 抜群のコストパフォーマンス



### Point ブースタ機構（増圧機構）とは

- 解体機のパワーを生み出すシリンダに供給される油圧を破碎や切断など必要な時だけ増圧することで強大なパワーを発生できる機構。

### Point ブースタ機構搭載解体機のメリット

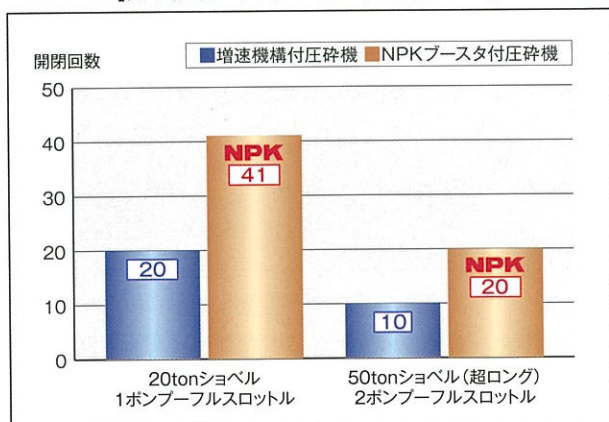
- ブースタ機構を搭載することで、より高い圧力を利用できるため、シリンダ径が細く出来ています。そのため、シリンダの伸縮に必要な油の量を最小限に抑える事ができ、低燃費で大きな省エネ効果を生み出します。
  1. 小さな容積でアームの素早い開閉動作が可能。
  2. 大きな破碎力を最小限の油量で実現。ブースタ機構が大きなパワーを発生させ、コンクリートや鉄骨等をストレスなく処理。
  3. 作業に要する油量が小さい分、燃料消費量も少なく済む。

一般的な増速機構付シリンダの容積（内径×ストローク）はNPK増圧機構付シリンダと比較した場合、約2～3倍大きな容積で設計されています。

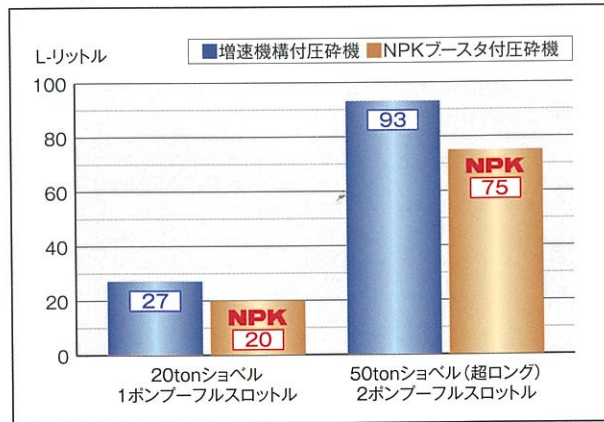
従ってシリンダの伸縮動作に於いて、特にシリンダを縮める（アーム開き）時は、NPK増圧機構付シリンダの約2～3倍の作動油を排出しなければなりません。この時に油圧ショベルのエンジンでは、より多くの燃料を消費しています。

下表1、2は、NPKの20tonクラス圧砕機SV-24Xと同クラスの増速機構付圧砕機を20tonショベルおよび50tonショベル（超ロング仕様）で開閉の繰り返し動作テストを各90分間実施した時の開閉回数と燃料消費量を示したものです。

[表1 燃料1リットルあたりの開閉回数]



[表2 アーム開閉テスト90分間の燃料消費量]



注) これらのデータは圧砕機のアームを無負荷で全開⇄全閉と繰り返し動作テストした時の比較であり、実際に多様な被破碎（切断）物を破碎したテストではありません。